



2025年2月14日

各位

会社名 アンジェス株式会社
代表者名 代表取締役社長 山田 英
(コード番号 4563 東証グロース)
問合せ先 経 理 部 長 村上 由佳
<https://www.anges.co.jp/contact/>

営業外収益、営業外費用、特別利益、特別損失、法人税等調整額の計上及び 2024年12月期 連結業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2024年12月期連結累計期間（2024年1月1日から2024年12月31日）における、営業外収益、営業外費用、特別利益、特別損失、法人税等調整額の計上及び2024年3月14日に発表しました2024年12月期（2024年1月1日～2024年12月31日）の連結業績予想と本日公表の実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外収益の計上

①為替差益

外国為替相場の変動により、主に米ドル建てによる関係会社への外貨貸付金で評価替えを行ったことにより為替差益1,591百万円を計上いたしました。

②補助金収入

当社と共同開発契約を締結しているカナダのバイオ医薬品企業であるVasomune Therapeutics Inc. が、急性呼吸窮迫症候群（ARDS）を標的とする同社の主要な候補薬であるTie2受容体アゴニスト（AV-001）の継続的な開発のため、米国国防総省より補助金を獲得したことに伴い受領した補助金を、当社開発費用の分担に応じて補助金収入として28百万円計上しております。

2. 営業外費用の計上

新株予約権の行使に伴う登録免許税及び証券代行手数料の発生等により、株式交付費を57百万円計上いたしました。

3. 特別利益の計上

ストックオプション権利保有者の退職による権利失効に伴い、新株予約権戻入益を6百万円計上いたしました。

4. 特別損失の計上

当社の連結子会社である EmendoBio, Inc. について、前連結会計年度において事業再編成を開始し、研究開発体制を変革するとともに、ゲノム編集にかかるプラットフォーム技術の社外への導出に注力する体制に改めました。その後、当連結会計年度において事業再編成時に策定した事業計画の実際の進捗の推移を確認した上で、当連結会計年度末において改めて事業計画を見直しました。その結果、過去における超過収益力の評価に基づいて計上されていた「のれん」を、現状に基づく評価に改めるために「のれん」及び有形固定資産を減損することとし、のれんの減損損失19,936百万円及び使用権資産の減損損失111百万円を特別損失として計上いたしました。また、同社における研究開発部門の再編成に伴い、事業構造改革費用を63百万円計上いたしました。なお、のれんの減損については、下記6. をご参照ください。

5. 法人税等調整額の計上

主に当社連結子会社の AnGes USA, Inc. において、米国の研究開発税制による繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、繰延税金資産の増加により、法人税等調整額を△25百万円計上いたしました。

6. のれんの減損について

当社は、2020年12月15日の「先進のゲノム編集技術を有する米エメンド社買収手続き完了のお知らせ」においてお知らせしましたとおり、ゲノム編集技術で独自のOMNIヌクレアーゼの開発を行っているEmendoBio Inc.（以下、「Emendo社」という）を子会社化いたしました。それに伴い、固定資産に「のれん」として22,713百万円を計上し、10年間かけて償却することとなりました。

最先端のゲノム編集技術の研究開発には多くの資金と人手がかかりますが、これまでの研究開発で多くのデータを収集してきたため、今後はこれまで収集したデータを有効に活用する段階に来たと判断し、昨年度よりEmendo社の事業再編成を実施いたしました。この事業再編成により、ゲノム編集に使用する独自のOMNIヌクレアーゼの探索と最適化を労働集約的に行ってきたものを、これまで蓄積された大量のデータをベースに人工知能を活用して知識集約的に行う研究開発体制に移行し、同時にその規模を縮小しました。

これに伴い、昨年は新たな研究開発体制の再構築に集中し、遺伝子細胞治療全般の研究開発の推進およびメガファーマ等との連携によるライセンス活動に取り組むべく、事業拠点をゲノム編集の最先端の地である米国にも構築し、事業活動の主軸を米国に移管すべく事業再編を開始し、進行中です。ゲノム編集技術の導出は、2024年3月14日の「当社子会社によるライセンス契約締結並びに2024年12月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」においてお知らせしましたとおり、スウェーデンのAnocca社とのライセンス契約に至りました。これらの経緯を踏まえ、これまでのEmendo社の超過収益力の評価を見直し、現状に基づく評価に改めるため「のれん」の減損を計上することといたしました。のれんの減損損失として19,936百万円を特別損失に計上いたしました。この減損により、2024年12月期末ののれんは0円となりました。

7. 2024年12月期の連結業績予想数値と実績値の差異（2024年1月1日～2024年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 600	百万円 △8,450	百万円 △8,450	百万円 △8,650	円 銭 △43.58
実績値(B)	643	△9,109	△7,537	△28,128	△119.53
増減額(B-A)	43	△659	913	△19,478	
増減率(%)	7.2	—	—	—	
(ご参考)前期連結実績 (2023年12月期)	152	△11,967	△5,651	△7,437	△39.29

8. 差異の理由

2024年12月期の連結業績につきましては、売上高は概ね計画どおりとなりましたが、米国でのHGF遺伝子治療用製品の開発やTie2受容体アゴニストの開発などの研究開発費が為替の円安の影響などもあり計画を上回ったことから営業損益は659百万円計画を下回りました。また、為替の円安の影響で計画にない営業外収益が発生したことから経常損益は913百万円計画を上回りました。加えて、上記6.に記載のとおり、当社子会社のEmendo社について、昨年より事業再編成を実施し、当年度において同社の事業計画を見直したことにより、「のれん」を減損することとなったことで特別損失が発生することとなりましたので、親会社株主に帰属する当期純損益が約19,478百万円下回りました。

なお、詳細につきましては本日開示いたします、2024年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）をご参照下さい。

以上